

希学園 第398回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第398回公開テスト 小4国語 解説動画(2025年7月13日実施)	https://vimeo.com/1100915723/e428b228f4

1 一気 2 幸福 3 助力

4 知人 5 頭数 6 夜明け

2 律よ 2 イ 3 バツ 4 I (記述題)

4 II その瞬 5 エ 6 あまゝるい (6 完答)

7 ア 8 ウ 9 A イ B ア C ウ

3 ケアと反対 2 X 傷つけない

2 Y ニーたす (2 Y 完答) Z 依存ける (2 Z 完答)

3 傷つゝいく (3 完答) 4 P ア Q イ

4 R イ S ア 5 A C (5 順不同・完答)

6 I 1 II 1 III 2

配点	
1・2 9・3 4	各2点×13=26点
2 4 I	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

2

4 I こぎれいで都会的などころのある少年がいなか者の自分の家の栗をほめてくれたことで、少年への引け目が晴れてうれしく思うとともに、あわい恋心をいだきはじめている。

(同意可)

1

1 「一気に」とはひといきに、休みをいれずに物事を行うことである。

2 「幸福」は二字とも字形に注意。「幸」は「辛」にしないこと。「福」の「しめすへん」を「ころもへん」にしないこと。

3 「助力」とは助けのこと。書きことばにはほとんどん慣れていこう。

4 「知人」とは知り合いのこと。「知友」ともいう。

5 「頭数」とは人数のこと。二字とも訓読みすることに注意。

6 「夜」は「明ける」と書く。「開ける」は閉じているものを開くこと。「空ける」はからっぽにすること。

2

『100年の木の下で』 杉本りえ

1 数行後に、「その朝、はちあわせしたのは」とある。不足している情報に注意して読み進める習慣をつけるようにしよう。

2 道に落ちた栗をひろわれても文句はいえないが、だからといっていい気はしない「律」の複雑な思いが読み取れる表現である。

とはいえ、「道に落ちたもんは、だれがひろてもいい」ということが「わかつている」というからには、道に落ちた栗をおじいさんがひろうことに關して、「律の家の栗」を「横取り」されたと考え、「許せない」と感じているわけではないことがわかる。

3 問題文の条件にもあるが、空らんの直前に「もつと」とあるからには、すでに出てきた表現が答えとしてふさわしいことになる。「バツが悪い」ということばの意味を「居心地が悪い」ということばと関連づけて類推できただろうか。

4 I…「出来事」があつて「心情」が動き、それが「言動」に表出される、という流れをふまえた解答をまずは心がけよう。「目をほそめ」というのは、何らかの明るい気持ちが出ているときの表現であり、また、「まぶし」さはそのものに圧倒されて直視できないときに感じるものである。「少年」に圧倒され、明るくなる気持ちとはどのようなものか。それは、この後の少女の変化が手がかりになる。「毎日食べていた、同じ栗」の味が変わり、「少年」に会うことを「期待しないでおこうとは思いつつも」、栗ひろいのときの外見に気をつかうようになり、「じっさいには、ぜったい、いえっこないことばかり」の「妄想や空想」にふける日々を送る十二歳の少女の内面を想像しよう。こうした変化のきっかけは、「少年」が「この栗、おいしいね。これまで食べた栗の中で、一番おいしかった」と自宅の栗をほめてくれたことにある（その瞬間、律は、うちの栗が大好きになった）。

さらにもとをただせば、「こぎれいで都会っぽい雰囲気がただよっている」「少年」に対し、自分は「絵にかいたようないなかの子」だという引け目があったところに、そのような予期せぬほめ言葉をもらったので、一瞬にして心をうばわれたのである。

II…それまでたいして好きでもなかった「栗の味」が変わったのは心情の変化による。Iの解説も参照のこと。

5 少年に栗をほめてもらって「うちの栗が大好きになった」のだといっても、それはなにも「おいしさに気づいた」のではない。設問4の解説も参照のこと。

6 「上等なあめ」という比喻表現をわざわざ作者がえらんだのは、「あめ」というものが読者に呼び起こす感覚がこの状況にぴたりだからである。これは「少年」との「思い出」にひたる「律」の心情をたとえた比喻表現である。「あめ」といまの「律」の「うっとり」とする心情の共通点はなにか。そのような心情は「妄想や空想」にふける後のほうまで続いているなかったか。

7 さまざまな思いがこめられていることが予想されるが、「律」と「少年」のおかれた状況に照らして可能性のあるものをきちんと選り分けたうえで、明らかに的外れなものを答えたい。本文冒頭で「偏屈そうなおじいさん」から受けた「忠告」をあたかも自分のことばのように「少年」に受け売りしようとしているのだが、「おじいさん」が「律」に対して少々押しつけがましきところがあったのに対し、「律」の気持ちにはむしろ、自身の気前のよさを示したいという気持ちや、いなか暮らしのいわば先輩として振る舞いたいという見栄が働いていることが、「教えてあげたかった」といった表現から読み取れる。おじいさんのことばを覚えていくかどうかは少年の知ったことではない。

8 本文の内容と丁寧に照らし合わせればそれほどむずかしい問題ではない。少年の乗る自転車については、「そのころ、新品の自転車にのっているのは、よほどのお金持ちしかいなかったから、まあ、ふつうのポンコツっぽい自転車だった」とあった。

9 A…「赤字」は支出が収入を上回ることで、「黒字」は収入が支出を上回ること。B…「出席」は授業や行事に参加すること。「欠席」は参加しないこと。「登校」は「下校」と対になる。C…「理想」は「現実」とは別に、こうであったらいい、と考えられたもの。「現実」をはなれて考えられるだけのものという点では、「空想」「幻想」はむしろ類義語のほうに近い。

10 「限りなく透明に近い居場所」 東畑開人

1 本文二行目に「ケアとセラピー」という対比を使ってみた」とある。しばらく「ケア」についての説明が続いたあとで、「ケアと反対なのがセラピーです」というところからセラピーの話がはじまる。

2 話題の中心にある語を筆者がどのような意味で用いているか（語の定義）には常に注意を払おう。二段落目で「僕はケアを『傷つけないこと』と考えています」とはつきり述べたうえで、四段落目では「それは別の言葉でいえば相手のニーズを満たすことです」と言いかえ、さらに次の段落で「そのことを別の言葉で説明すると、『依存を引き受けること』というふうにもいえると思います」と言いかえている。

3 「そういえるのは筆者が『セラピー』をどのようなものだと考えているからですか」という設問の文言も設問2と同様に、筆者なりの「セラピー」の語の定義や機能を問うているものと理解できる。

4 P…「傷つけない」、「何もしなければ」という前後の言葉から「消極」的とわかる。Q…Pとは逆に「氷を運んであげる」ことは「積極」的である。R…「特別」でなく「ありふれたこと」。S…これも「ありふれたこと」というのが大きなヒントになる。

5 文章全体の対比をつかみ、設問2、3をふまえて「ケア」と「セラピー」のイメージをつかんだうえで考えよう。

6 設問5と同様、「ケア」と「セラピー」の具体化の問題だが、こちらは本文中の例ではなく、本文から読み取ったことを、文章をはなれて現実生活の理解に応用できるかを問うた問題。I…「飼犬」を「傷つけない」ようにしている。II…静かにしてほし

いという「ニーズ」を満たしている。III…「友達との別れ」による悲しみという「傷つき」と向きあっている。

以上